



さあ、行こう！ 自動車整備士 の道へ

自動車でもっと大事なのは、安全に、そして安心して乗れること。そのために欠かせない重要な役割を担うのが、整備士です。自動車の進化に対応して劇的に高度化している技術を学び、整備士として巣立っていく自動車整備専門学校の学生たち。今春、社会に羽ばたいていく学生のひとりに、学校生活の魅力や自動車整備の仕事への思いなどを聞きました。

— 自動車に興味を持ったきっかけは。

父が車を扱う仕事をしていたので、家の駐車場にも、お客様から預かった、たくさんのお車がありました。輸入車から日本車、セダンもあればワゴン車もあって、小さい頃から見ているのがとても楽しかった。そんなことから車が好きになりました。



— 具体的に、自動車整備の道に進もうと思うようになったのは、どうですか。

自動車業界を意識するようになったのは、もちろん父の影響があります。休みの日でもお客様から困っているという連絡があれば、出かけていって対応する。そんな父の姿を見ていて、大変だなと思うのと同時に、尊敬するようになりまして、部品にも興味があり、父が預かっていた車のボンネットを開けて見るのが楽しく、自分は整備士になろうと決めたのが、中学2年のときです。そのために、高校も工業高校の機械科を選びました。夏休みなどには父の仕事を手伝って、輸入車と国産車では付いている部品がまったく違っていることなど、いろいろなことを知ることで、どんどん関心が深まりました。

— 学校ではどんなことを学んでいるのですか。

私のいる4年制の一級自動車研究開発学科は、1・2年次で二級自動車整備士を取得し、3・4年次で一級自動車整備士コースと、自動車研究開発コースに分かれます。私は一級自動車整備士コースで、一級整備士資格取得のための学習と、高度化する車の故障や整備に対応できる、高度診断技術や知識の習得の一方、お客様対応やサービスマネジメントなどの基礎スキルを学んでいます。

— 学校生活ではどんなことが一番楽しいですか。

実習の授業はすべて班で行動する点ですね。先生が1台の車に故障の箇所をつくって、それを4人で見つけて出すのですが、1人では見つけられなかったり、診断に1時間以上もかかったりします。それを4人でやること、早く見つけることができるし、わからない人に教えることで、教えた方も勉強になります。こういう間違いをしやすくて、自分でもわかることができると、自分がわかっていない点もしっかり認識できる利点もあります。正解にたどり着く経路がいろいろある中で、いろいろなパターンが見つかるので、どんどん知識が経験として積み重なっていくのが、すごく楽しいです。



— 自動車整備の仕事の将来性について、考えたことはありますか。

もちろん、よく考えます。今後、自動車は電動化の方向に進んでいって、やがては内燃機関としてのエンジンが消えていく可能性はあると思います。しかし、足回りやボディ、シャーシなどは残るはずなんです。制度としての車検や点検などは、安全に車を使うためには欠かせないものだと思います。なので、私たちは整備士の仕事はなくなることはないと思うんです。とくに、水素や電気をエネルギー源にした車が増えれば、手がけられない領域がさらに広がっていくのではないのでしょうか。



— 今後、どんな整備士になりたいと思っていますか。

昔ながらのエンジン音が好きだという人はまだまだ多いけど、今後、エンジンがなくなるとしても、車を走らせる楽しさは残ると思います。そういう意味でお客様へのニーズ、要望にどうやって応えていくかということが、整備の面でも大事になっていきます。私が整備士として目指すのは、そういうご要望に的確に応え、お客様から「ありがとう」と言ってもらえることです。自分の仕事で、笑顔になっていただければ、こんなうれしいことはありません。父の仕事を通して、お客様の笑顔をたくさん見てきました。私も整備士として、そういう笑顔にたくさん出会いたいと思っています。

